

令和 7 年度シラバス

(令和 7 年度入学生)



第 1 学年

茨城県立下妻第二高等学校

令和 7 年度教育課程編成表

学校番号	76	学校名	茨城県立下妻第二高等学校				学校長名		島根 千春						
		課程名	全日制		学科名	普通科		令和 7年 4月 入学生徒用							
教科		類型または学科名	文Ⅰコース				文Ⅱコース				理コース				
		単位数または時数	総単位数	学年配当			総単位数	学年配当			総単位数	学年配当			
		科目		1	2	3		1	2	3		1	2	3	
国語	現代の国語	2	2				2	2				2	2		
	言語文化	3	3				3	3				3	3		
	論理国語	6			3	3	6			3	3	4		2	2
	古典探究	6			3	3	6			3	3	4		2	2
地理歴史	地理総合	2			2		2			2		3			3
	歴史総合	2	2				2	2				2	2		
	日本史探究	0, 6			2	4	0, 6			2	4				
	世界史探究	0, 6					0, 6								
	* 歴史探究	1				1	1				1				
公民	公共	2	2				2	2				2	2		
	政治・経済	3				3	2			2					
数学	数学Ⅰ	3	3				3	3				3	3		
	数学Ⅱ	4, 6			4		4			4		4, 8		4	4
	数学Ⅲ					2						0, 4			
	数学A	2	2				2	2				2	2		
	数学B						2			2		2			2
	数学C						2			2		2		2	
理科	物理基礎											0, 3			
	物理											0, 5		3	5
	化学基礎	2	2				2	2				2	2		
	化学											6		3	3
	生物基礎	2, 4			2		4			2	2	0, 3			
	生物											0, 5			
	地学基礎	2			2		2, 4			2	2	2		2	
* 化学探究						0, 2				2					
保健体育	体育	8	3	2	3		7	3	2	2		7	3	2	2
	保健	2	1	1			2	1	1			2	1	1	
芸術	音楽Ⅰ	0, 2					0, 2					0, 2			
	音楽Ⅱ	0, 2		2					2					2	
	書道Ⅰ	0, 2				2	0, 2					0, 2			
	書道Ⅱ	0, 2													
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				3	3				3	3		
	英語コミュニケーションⅡ	4			4		4			4		4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4				4				4
	論理・表現Ⅰ	2	2				2	2				2	2		
	論理・表現Ⅱ	2			2		2			2		2		2	
	論理・表現Ⅲ	3				3	2				2	2			2
家庭	家庭基礎	2	2				2	2				2	2		
情報	情報Ⅰ	2			2		2			2		2		2	
	* 情報活用実践	1				1									
共通科目の履修単位数計			87	29	29	29	87	29	29	29	87	29	29	29	
総合的な探究の時間			3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	1
履修単位数合計			90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	
ホームルーム活動の週当たり配当時数			3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	1
組数			4				1				2				
											授業の1単位時間		学期制		
											50 分		二学期		

令和7年度 教科名 国語 科目名 現代の国語 シラバス

1 科目・使用教科書

科目名	単位数	2 単位
履修学年	1 学年全クラス	使用教科書 高等学校 現代の国語 (第一学習社)
副教材	「学習課題集 現代の国語編」(第一学習社)	

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・副教材や辞書を活用して、予習復習に努め、語彙力や読解力を高める。
- ・教材を通して、思考を深めたり関心を広げたりする。学校図書館や情報機器・新聞などを活用する。読書に親しむ。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(漢字や語句など)や提出物(課題・授業プリント・感想文・レポート)を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	「本当の自分」幻想 (平野啓一郎)	主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。
		「話し方の工夫」 さまざまな場面の文章	日常のさまざまな場面において、話し方の工夫について学習する。
	期末考査	「羅生門」 (芥川龍之介)	登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、自分の意見や考えを論述する。
		水の東西 (山崎正和)	日本と西洋の文化を比較する文章を読み、日本の文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。
後期	中間考査	「間」の感覚 (高階秀爾)	日本と西洋の文化を比較する文章を読み、日本の文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。
		無彩の色 (港 千尋)	固定観念、常識論を打ち破る評論を読み、視点を広げる。
	学年末考査	論理的な表現	論理的な表現について学ぶ。
		現代の「世論操作」 (林香里)	情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。
		鏡 (村上春樹)	当たり前の日常の中に突如現れる「自分とは何か？」の問いに向き合う。
		論理分析【事実と意見】 「私作り」とプライバシー (坂本俊生)	事実をもとにして、情報を集め、ものごとの本質に迫り、自分の意見を書く。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点②	観点③
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート (担当者から)

文章読解力の基礎は漢字力です。漢字の学習にはコツコツと取り組みましょう。また、さまざまな分野の読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げることで、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養いましょう。そして、それを他者に伝える能力も身に付けることを目指して取り組んでください。

令和7年度 教科名 国語 科目名 言語文化 シラバス

1 科目・使用教科書

科目名	単位数	3単位
履修学年	1 学年全クラス	使用教科書 高等学校 言語文化（第一学習社）
副教材	「学習課題集 言語文化編」（第一学習社）	

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・副教材や辞書を活用して予習復習の習慣をつけ、古文特有の言葉や文法、漢文の句法などの基本事項を定着させる。
- ・繰り返し音読をして、古文・漢文に慣れ親しむ。
- ・定期考査をはじめ、小テスト（漢字や語句など）や提出物（課題・授業プリント・感想文・レポート）を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	「見のそら寝」（「宇治拾遺物語」）	古文に慣れ親しみ、描かれた面白さを味わう。漢文に慣れ親しみ、訓読するための基礎知識を習得する。
		「漢文の学習 訓読に親しむ（一）～（三）」	
	期末考査	「絵仏師良秀」（「宇治拾遺物語」）「漁夫之利」	古文に描かれた人物像を読み取る。漢文の訓読に慣れるとともに、故事成語について学ぶ。
		「なよ竹のかぐや姫」（「竹取物語」）	昔話の由来となっている古典作品を読み、古典特有の表現などについて理解を深める。
		「枕草子」	随筆に書かれた、ものの見方や感じ方を読み取る。
後期	中間考査	「狐借虎威」「蛇足」（「戦国策」）	漢文の訓読に慣れるとともに、故事成語について学ぶ。
		唐詩の世界	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。
	学年末考査	「芥川」「東下り」（「伊勢物語」）	歌物語の特徴と読み解き方を理解する。
		「その子二十」「こころの帆」	短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。
		「土佐日記」	日記文学を読んで、表現方法と随筆意図を読み解く。
		「桃花源記」	作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点②	観点③
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート（担当者から）

1年生の「言語文化」で学習する内容は、3年間の古典学習の基礎となります。古語や古典文法、漢文の句法などの基本事項をしっかりと身につけて下さい。さまざまな分野の古典に親しみ、ものの見方や考え方を広げて下さい。わからないことはそのままにせず、いつでも質問に来て下さい。

令和7年度 地理歴史科 歴史総合の学習(シラバス)

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	歴史総合	単位数	2	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	『歴史総合 近代から現代へ』(山川出版)				
副教材等	『歴史総合 近代から現代へ ノート』(山川出版)				

2 学習目標

今年度の授業では、以下の能力の育成を目指します。

- ①日本史を軸として、世界で起こった歴史的事象と関連付けて理解する。(知識)
- ②日本と世界に対して幅広い視点を持ち、様々な歴史的事象に対する疑問を解決する能力を身につける。
(主体的に学習に取り組む態度)、(思考・判断・表現)
- ③学んだ知識や情報をまとめる能力を身につける。(技能)

3 学習方法

教科書、副教材、史料と文献、ICT教材等を活用した授業を行います。

4 評価方法

学期	区分	学習内容、試験範囲等
前期	中間考査	近代化への胎動 欧米の市民革命と国民国家の形成
	期末考査	アジアの変容と日本の近代化 帝国主義の時代
後期	中間考査	第一次大戦と大衆社会 経済危機と第二次世界大戦
	期末考査	冷戦と脱植民地化 多極化する社会 グローバル化と現代世界

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

中学校で学習してきた近現代の日本の歴史と、同時期に世界で起こった出来事を関連付けて学習していきます。「近代化」、「大衆化」、「グローバル化」を視点に17世紀以降の世界や日本はどのようにして形作られていったのか。現代につながる歴史を総合的に学んでいくのが「歴史総合」です。

令和7年度 公民科 公共の学習(シラバス)

1. シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	公共	単位数	2	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	公共(東京書籍)				
副教材等	公共ワークノート				

2. 学習目標

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成する。

3. 学習方法

教科書、資料集、視聴覚教材やインターネット等を多角的に活用して授業を展開し、理解を図る。

4. 学習方法

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	第1部 「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち
	期末考査	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理
後期	中間考査	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち
	期末考査	第2章 法の働きと私たち

5. 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
授業観察	○	○	○
小テスト・提出物	○	○	
提出物		○	○
定期考査	○	○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6. 担当者からのメッセージ

社会のグローバル化、少子高齢化、情報化など社会の急速な変化が進む中、現代社会をとらえる枠組みを身に付けると同時に、現代社会について倫理や社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解することが求められています。また、こうした学習と関連付けて、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察できることが必要です。これらの学習を通じて、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、人間としての在り方生き方について考察する力を身に付けることを目指します。

令和7年度 数学科 数学ⅠAの学習(シラバス)

1 科目・使用教科書

科目名	単位数 5 単位
履修学年	第1学年全クラス 使用教科書 数学Ⅰ (数研出版)
副教材	クリアー数学Ⅰ+A 新課程 教科書傍用

2 学習目標

〈数学Ⅰ〉 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 〈数学A〉 場合の数と確率、図形の性質及び数学と人間の活動について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
--

3 学習方法

基本的に講義形式が中心となります。反復演習が大切になります。講義→演習→復習→定着という流れを身に付けてください。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	数学Ⅰ 第1章 数と式 (1) 式の計算 (2) 実数 (3) 1次不等式	・数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。
	期末考査	数学Ⅰ 第3章 2次関数 (1) 2次関数とグラフ (2) 2次不等式と2次方程式	・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらの事象の考察に活用できるようにする。
後期	中間考査	数学Ⅰ 第4章 図形と計量 (1) 三角比 (2) 三角形への応用	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考え方の有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
		数学Ⅰ 第2章 集合と命題	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	学年末考査	数学A 第1章 場合の数と確率 (1) 場合の数 (2) 確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
		数学A 第2章 図形の性質 (1) 平面図形	・平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
		数学Ⅰ 第5章 データの分析 数学A 第3章 数学と人間の活動	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それらを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 ・数学と人間の活動について、数学的な活動を通して、それらを数理的に考察することの有用性を認識し、それらを事象の考察に活用できるようにする。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート (担当者から)

数学は積み重ねが大切です。基本事項を1つ1つ身に付けることによってできるようになっていきます。テスト直前に勉強する科目ではありません。毎日の復習をすることが一番の近道です。

定期試験、課題テスト等为目标にして準備していきましょう。文系理系にかかわらず、数学ⅠAは大学入学共通テストで大切な科目になります。早いうちに苦手分野を見つけ克服しましょう。

令和7年度 理科 化学基礎 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	化学基礎	単位数	2	履修学年・区分	1 学年
使用する教科書	数研出版『新編 化学基礎』				
副教材等	数研出版『新編化学基礎 準拠 サポートノート』				

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・化学の学習内容が日常生活や社会とかわることを知り、身近な物質とその変化への関心を高める。 ・化学の学習は環境に配慮した上で、健康で安全な生活を送るために欠かせないものであることを理解する。 ・主体的に観察、実験などに取り組むことによって科学の方法を学び、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・化学の基本概念や原理・法則を具体的な物質の性質や反応と結び付けて理解し、活用する能力を身に付ける。 ・物質に関する原理・法則の基礎を理解し、物質とその変化を微視的にとらえる見方や考え方を養う。

3 学習方法

主体的に授業に取り組み、復習を十分に行って理解を深め、知識を定着させて下さい。また、目的意識を持って積極的に実験、演習に取り組んで下さい。
--

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲	学習の狙い
前期	中間考査	序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成 第1章～第3章	身近な物質や元素、構成粒子について理解する。 物質の構成における規則性や関係性を見出して、表現する力を身につける。
	期末考査	第2編 物質の変化 第1章～第3章	物質の変化とその利用についての観察、演習などを通して、物質量と化学反応式、化学反応を理解する。
後期	中間考査	問題演習	進路実現に向けて、問題演習に取り組む。
	期末考査	問題演習	進路実現に向けて、問題演習に取り組む。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

授業に集中して復習を特に重視して下さい。計算などの問題が多くあるので、反復練習し着実に定着できるようにして下さい。日々の努力を怠らず、計画的に学習に取り組みましょう。
--

令和7年度 保健体育科 体育シラバス

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	体 育	単位数	3単位	履修学年・区分	1学年・全クラス
使用する教科書					
副教材等					

2 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3 学習方法

長縄跳びについては、与えられた規定課題をグループで協力してクリアできるようにする。
選択球技種目については、ゴール型・ネット型・ベースボール型から選択履修する。
持久走については、体力の向上と心肺機能の発達を図るとともに最後まで走りきる精神力を養う。

4 学習方法

学期	区分	学習内容
前期	4月	体づくり運動・長縄跳び
	5月	
	6月	選択球技種目①
	7月	
	9月	選択球技種目②
後期	10月	持久走
	11月	
	12月	
	1月	選択球技種目③
	2月	
	3月	

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識、技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
長縄跳び		○	○
球技	○	○	○
持久走	○		○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

5 担当者からのメッセージ

各種目の技能を評価するだけでなく、苦手種目でも克服しようと努力する意欲・態度を大きく評価します。また、集合整列、準備片付け、服装、授業態度が評価に大きく影響するので、担当者の話をよく聞き、主体的に授業に取り組むこと。

令和7年度 保健体育科 保健シラバス

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	保健体育	単位数	1単位	履修学年・区分	1学年・全クラス
使用する教科書	新高等保健体育(大修館)				
副教材等	新高等保健体育ノート(大修館)				

2. 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

3. 学習方法

教科書・保健ノートを中心とした一斉授業の他、映像教材の視聴によるレポート作成やインターネット等を使用した調べ学習を行い、単なる受け身の知識理解だけではなく、自主的自発的に知識を得られるようにする。

4. 学習方法

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	4月	第1章 現代社会と健康 日本における健康課題の変遷 ～ がんの予防と回復
	5月	
	6月	
	7月	
	9月	
後期	10月	第1章 現代社会と健康 ～ 第2章 安全な社会生活 喫煙と健康 ～ 日常的な応急手当
	11月	
	12月	
	1月	
	2月	
	3月	

5. 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査(2回)	○	○	
保健ノート	○		○
提出物		○	○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。 それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

5. 担当者からのメッセージ

定期考査(2回)の結果が評価の大きなウエイトを占めています。しかし、ノートや提出物の提出も重要です。提出が不十分だと、評価が大きく下がります。
また、普段の授業の態度が定期テストの結果にも影響しますので、授業中の取り組み方には十分注意して下さい。

令和7年度 芸術科 音楽Ⅰの学習（シラバス）

1 シラバス、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書等

科目名	音楽Ⅰ	単位数	2	履修学年・区分	1年全クラス・音楽選択者
使用する教科書	教育芸術社 MOUSA 1				
副教材等	オカリナ曲集				

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3 学習方法

歌唱・器楽において多くの実技課題を提示していきます。教材によりグループ別・一斉というように形態を分けて学習していきます。鑑賞領域については学習プリントを使用していきます。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容、評価範囲等
前期	4月～	歌唱（校歌・日本のポピュラーソング）ギターの演奏
	6月～	ビートルズを歌おう ドイツ歌曲を歌おう
後期	10月～	オカリナの演奏 音楽史を学ぼう
	1月～	鑑賞（日本の伝統音楽） 三線について学ぼう

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に授業に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物		○	○
小テスト	○		
実技テスト	○		
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、 A 十分満足できる、 B おおむね満足できる、 C 努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

中学校で学んだことからの積み重ねの上に、さらに基礎固めをしていきます。高校生にとってこれだけは学んで欲しいという学習内容になっています。様々な言語で歌い、いろいろな楽器を体験し幅広い音楽活動をしていきます。自ら表現者となり、自分の中にある何かを音楽で表現していきましょう。

令和7年度 芸術科 書道Ⅰの学習（シラバス）

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書等

科目名	芸術・書道Ⅰ	単位数	2	履修学年・区分	1年全クラス・書道選択者
使用する教科書	書Ⅰ：教育図書				
副教材等	くらしのペン習字（教育図書）				

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 学習方法

実技・鑑賞・書の歴史が柱となり、漢字の書体の変遷から筆者・古典の特徴等を理解し、それぞれの技法を学びます。また、古典の学習を生かし創作します。歴史的作品やお互いの作品を鑑賞します。書の幅広い活動に取り組みます。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容、評価範囲等
前期	4月～	①オリエンテーション ②書道の世界にふれる。 ③漢字の書 1 漢字の変遷とさまざまな書体 2 楷書「唐の四大家」 3 行書「蘭亭序」「風信帖」
後期	10月～	④仮名の書 1 仮名を知る 2 仮名の基本「蓬莱切」 ⑤篆刻 1 篆刻を知る 2 「姓名印」を彫る。
	1月～	⑥漢字仮名交じりの書 1 イメージを文字で表現する。 2 創作する。 3 鑑賞する。

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習状況の観察	○		○
学習記録まとめ		○	
提出作品	○	○	○
小テスト	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

・書道の学習において作品をよく観察することが大切です。自らの完成に基づいて対象となる古典や作品に素直な気持ちで向き合ひましょう。漢字・仮名の臨書を中心に半紙作品を書きます。各書体の筆法を身に付けて下さい。篆刻作品(姓名印)を制作し、自分の作品に押印します。漢字仮名交じり書では画仙紙に創作し鑑賞します。展覧会にも出品します。積極的に取り組むことと、心静かに集中して取り組むことが大切です。

令和 7 年度 英語科 英語コミュニケーション I シラバス

1 科目・使用教科書

科目名	単位数 3 単位
履修学年	学年全クラス 使用教科書 Grove English Communication I (文英堂)
副教材	ワークブック等補助教材

2 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

3 学習方法

- ・英語によるやり取りや言語活動を中心に授業が展開されます。授業の予習をした上で授業に臨むことが大切です。
- ・授業に意欲的に取り組みましょう。個人での活動以外にも、ペア活動やグループ活動などが実施されます。言語活動に積極的に取り組み、生徒間でのコミュニケーションを通して、自分の考えを人に伝える土台を作ることができます。
- ・語彙力・文法力を身につけながら内容理解を深めていきましょう。また、教科書の内容を捉えることで読解力も身に付けることができます。
- ・予習→授業→復習が英語学習の基本です。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	Lesson1 Communication with People Around the World	・日常表現におけるしぐさについて知る。 ・よいコミュニケーションのために何が必要であるかを理解する。 ・主部と述部 / 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」 / 現在・過去・未来を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
		Lesson 2 Pets and Humans: Together Through Time	・人気のあるペットについて知る。 ・長い歴史における人間とペットの関係の変化について理解する。 ・ペットや動物について意見を交換する。 ・名詞句 / to 不定詞(名詞的用法) / 動名詞を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
	期末考査	Lesson 3 Musubi - Ties and Knots	・日常のさまざまなシーンにおける結びについて知る。 ・古来、日本人が結びに込めたさまざまな願いについて理解する。 ・「S+V+O1+O2」 / 「S+V+O+C」 / 進行形を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
		Lesson 4 The power of Mushrooms	・キノコを用いたいろいろな料理について知る。 ・自然界においてキノコが果たす役割について理解する。 ・現在完了形 / 過去完了形 / 「S+V+O (=that 節)」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
		Lesson 5 Braille Neue: Connecting Dots with Lines	・日常生活で見られる点字等の工夫について知る。 ・点字とデザインについて読み取る。 ・受け身 / 分詞の形容詞的用法 / 助動詞を含む受け身/ to 不定詞(形容詞的用法)を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
後期	中間考査	Lesson 6 Is This Meat Real or Fake?	・日本人の好きな代表的な料理について知る。 ・食糧問題・環境問題を解決するために代替肉の果たす役割について理解する。 ・関係代名詞(主格) / to 不定詞(副詞的用法) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。

	Lesson 7 Plastic Polluting Our Oceans	・日本のペットボトルの年間出荷本数の推移について知る。 ・プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響について理解する。 ・比較 / 「It is+～ (for～) + to 不定詞」 / 「S+V+01+02(=that 節) / 「S+V+0+to 不定詞」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
学年末考查	Lesson 8 Manga: A Global Hit!	・マンガで用いられる独特な表現について知る。 ・世界に広がる日本のマンガ文化について理解する。 ・「S+V+0+ C(=原形不定詞)」 / 「It is+形容詞 [名詞] +that 節」 / 「S+V+0(=疑問詞節など)」 / 「S+V+0+C(=現在分詞)」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
	Lesson 9 The Mysteries and Secrets of Petra	・諸外国の文化の側面を知る。 ・ペトラ遺跡の歴史・文化について理解する。 ・関係副詞 (when、where) / 関係副詞 (why、how) / 仮定法過去 / 完了進行形を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
	Lesson 10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	・家庭からの二酸化炭素排出量の内訳を知る。 ・グレタ・トゥーンベリさんの行動と主張について理解する。 ・仮定法過去完了 / 強調構文 / 分詞構文 / 「S+V+01+ 02(=疑問詞節など)」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。
	For Reading Hairspray	・1960 年代当時の高校生のようなすを知る。 ・物語における登場人物たちの役割を理解する。 ・物語の展開と結末を理解する。 ・長い英文を読むことに慣れる。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物	○	○	○
レポート			○
小テスト	○		
定期考查	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート（担当者から）

現代社会を捉えた新鮮な題材を通じて、語彙力・文法力・読解力の基礎を育成していきます。幅広い生き方や価値観・世界観に目を向け、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力や表現する姿勢を培います。授業中の言語活動等に積極的に取り組み、コミュニケーション力を伸ばしていきましょう。1年生で身につけた英語力が高校の英語学習の土台となります。毎日の家庭学習や授業の予習・復習・小テスト・週末課題・定期試験等に意欲的に取り組み、語彙力・文法力・読解力をバランス良く身につけていきましょう。”Slow but steady wins the race!(継続は力なり)”着実に英語力を伸ばしていきましょう！

令和 7 年度 英語科 論理・表現 I シラバス

1 科目・使用教科書

科目名	単位数 2 単位
履修学年	学年全クラス
使用教科書	啓林館 Vision Quest English Logic and Expression I Standard
副教材	ワークブック等補助教材

2 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

3 学習方法

・学んだ文法や表現を使って文を書いたり話したりできるように、「文法を含むモデル会話 → 文法や表現の確認 → Exercises → 学んだ表現や文法を使った発信活動」というパターンで勉強します。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考查	Lesson 1 I want to introduce my new friend.	さまざまな疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答することができる。また、単文、重文、複文の構成を理解し、まとまりのある文で表現することができる。
		Lesson 2 How about joining our group?	5つの文型と There is の構文を理解し、文を組み立てることができる。また、注意すべき自動詞と他動詞の使い分けができる。
		Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend.	基本時制の構造と概念を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて、書いたり話したりすることができる。
	期末考查	Lesson 4 Have you ever tried it before?	現在・過去・未来完了形の概念を理解し、それぞれの用法を区別することができる。また、共に使える語句を使って、適切に文を作ったり、表現したりすることができる。
		Lesson 5 What do you want to do after school?	助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現することができる。
		Lesson 6 Did you hear about the new shop?	受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、必要に応じて使い分け、適切に伝えることができる。
後期	中間考查	Lesson 7 I'm happy to have you with us.	不定詞の様々な用法を学び、より詳細な情報を伝えることができる。
		Lesson 8 What sport do you like playing?	動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝えることができる。
		Lesson 9 Digital media has come a long way.	名詞を修飾する用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現することができる。
	学年末考查	Lesson 10 That's why I decided to go back.	関係詞を用いて複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。また、複合関係詞を用いて譲歩の意味を表すことができる。
		Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or expensive ones?	比較に関する様々な用法と表現を理解し、物事の状態を分かりやすく説明することができる。
		Lesson 12 If I were you, I'd see it as a positive.	仮定法を用いて、事実と違うことや実際には起こりえないことを述べるすることができる。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考查	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート（担当者から）

中学校と比べると、高校は授業の進度がかなり速くなります。授業のペースに遅れないでついて行くためには、予習と復習が大切です。「予習→授業→復習」という黄金のサイクルを確立させて英語の力をつけていきましょう。分からないことがあったら担当の先生や友達に遠慮なく質問して、疑問を残さないように心がけましょう。

令和 7年度 家庭科 家庭基礎シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	家庭基礎	単位数	2	履修学年・区分	1学年全クラス
使用する教科書	『図説 家庭基礎』(実教出版)				
副教材等	『LifeDesign』(実教出版) 『図説家庭基礎 学習ノート』(実教出版)				

2 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 学習方法

教科書や資料集を活用して知識を深め、被服実習や調理実習等の実践的・体験的な授業を通して技能を身に付ける。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲	学習の狙い
前期	4・5月	衣生活(エプロン作成)	被服の機能と着装及び安全、環境に配慮した被服の計画・管理など衣生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける
	6・7月	子どもの生活と保育	子供を生み育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察することができる
	8月(夏季課題)	ホームプロジェクト	自己の家庭生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践することができる
	9・10月	食生活と健康	栄養と食事、食品と調理など食生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して健康や環境に配慮した安全な食生活を営む
後期	11月	・高齢期の生活と福祉 ・共生社会と福祉	高齢者の生活を支えるための家族、地域社会の役割の重要性について考察できる
	12月	住生活と住環境	住生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫することができる
	1月	青年期の自立と家族・家庭	家庭や地域のよりよい生活を創造するために生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める
	2月～	・経済・消費生活 ・生活設計	近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
ノート・ワークシート		○	○
ホームプロジェクト		○	○
筆記テスト	○	○	
実技テスト・製作物	○		○
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

家庭科の学習は、普段の生活と密接に繋がっています。日頃からこのような流れを意識して生活してみましょう。①生活中的の様々な問題の中から課題を設定する⇒②その解決を目指して解決方法を検討する⇒③計画を立てて実践する⇒④その結果を評価・改善する